



⑯ 約 21 万坪（東京ドーム約 15 個分相当）にもおよぶ広大な敷地

【ふじのうえん】 不二農園

区分：史跡
所在地：裾野市桃園

不二農園の始まり ～ 引き継がれた開拓精神 ～

明治初期、禄を離れた江戸幕府旗本7名が政府から官有地の払い下げを受け桃園の地を開墾したことが始まりとされています。開墾には土族から依頼を受けた地元民が携わり、「佐野農場」と呼ばれていました。これが不二農園の前身です。明治中期、茶の市況が急転し暴落が続いた為、収入が不安定となった土族達の困難を見かね、遠州森町の実業家鈴木藤三郎（1855～1913）が助力し、「鈴木農場」と名を改め農場を開設しました。藤三郎は茶の栽培の他、果樹、酪農、林業にも事業をひろげました。

その後、経営危機に陥った鈴木農場の経営を引き継いだのが岩下清周（1857～1928）です。清周は信州の出身で、東京に出て学問を修め、関西に赴いて北浜銀行の頭取となり関西財界で活躍した人物です。清周は裾野のこの地に赴き、大正3年（1914）、鈴木農場を「不二農園」と改名しました。当時、不二農園は山林56町歩、茶園16町歩の他、合計75町歩の広大な土地を有し、茶園の手入れや製茶、種々の果樹や野菜の試験的栽培、温室栽培を手掛けるなど、模範的農園として地方での名が高まってきました。



⑰ 一代目製茶工場



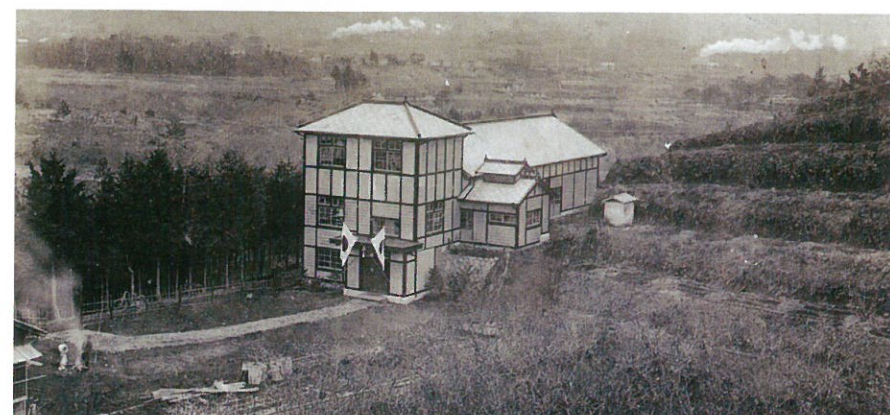
⑱ 大正初期
一代目製茶工場前にて不二農園製茶部

温情舎の起こり ～ 不二聖心女子学院の起源～

岩下清周は、近代農業に取り組む一方、農園で働く人々の子供や地元の子供達のために、大正9年（1920）温情舎小学校を設立しました。また、校舎を地域に開放し、日曜学校や地元の青年達のために近代農学の研修会や教育講演会等も行いました。



⑲ 岩下清周



⑳ 当時としては大変近代的建物である温情舎小学校の全景

温情橋の建設

甲州道より二本松浅間神社の前を通り現在の料亭松富横より、根方道にかけて掛けられました。静岡県で最初のコンクリートアーチ橋で地域の人々にとっては、大変利便性の高い橋でした。この橋は、昭和16年（1941）に台風で災害流失しています。



㉑ 温情橋
大正9年(1920年)岩下清周氏により建設される

現在の不二農園

大正初期には敷地を広げ、新たに建てられた二代目製茶工場は「東洋一のお茶工場」と評されました。その後、東名高速の工事に伴い、二代目製茶工場は立ち退くこととなり、昭和41年（1966）農園内に三代目製茶工場が建設されました。昭和40年（1965）までは、お茶・農産物の栽培・酪農・養鶏・造林が主体でしたが、1970年代になると一部の果樹園と牧草地を残してお茶の栽培と製茶事業に特化しました。平成20年（2008）に製茶工場は閉鎖し、製茶事業は現在外部委託しています。



㉒ 東洋一と評された二代目製茶工場



㉓ 現存する三代目製茶工場
当時の状況を彷彿させるお茶工場の全景